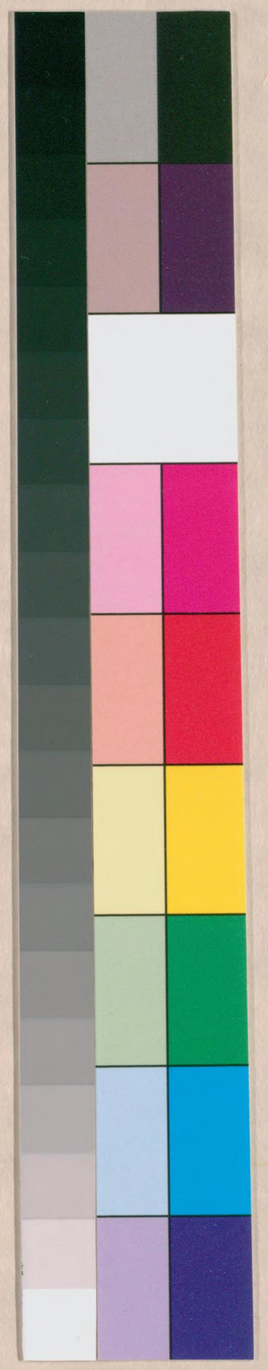
群書類從

百十二上

127
666
1

東京圖書館

和書門
叢書類
二ノ四函
二架
七號
二六六冊



国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

明治八年文部省交付

TOKIO LIBRARY

蔵書印

羣書類從卷第百十二上

裝束部一

檢校保己一集

滿佐須計裝束抄

一卷

調度并裝束事

母屋庇調度事

同御裝束事

五節所御裝束事

姫君裝束事

童女裝束事

下仕裝束事

女出事

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

女房車衣事
又童事　下仕事　雑仕事
可裹物事
裹御艶書事
裹名香事
裹重装束事
所具本撰之物等事
童女物忌事　左右
艶書裹撰事
名香裹撰事

裹辞書筥事
裹女房装束事
裹法服事　付束帯直衣裹撰事
童女物忌事　左右
辞書筥裹撰事
法服裳結撰事

女房車衣事
又童事　下仕事　雑仕事
可裹物事
裹御艶書事
裹名香事
裹重装束事
所具本撰之物等事
童女物忌事　左右
艶書裹撰事
名香裹撰事

裹辞書筥事
裹女房装束事
裹法服事　付束帯直衣裹撰事
童女物忌事　左右
辞書筥裹撰事
法服裳結撰事

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

おふねのわすの（透）
いまだとゝのへてあく（鉤）みたちのつまやう
ろいそのまたのたゝみそ
罗をあけ（上）ろにへ
にあて（小）おそ（端）のうち
一方つあき（上）そよつの（四）すそをいそちあてをきて
やりにゝのまあけてう（内）うちの（外）ひも（紐）をもてあけてる
まろに一むら（結）ひとそのちわあれをてすそのわ
かこと陽不七すれもあ
ナまろにすそをまろ
ひまとたにはの宮もろ
えへろみおもそい祝いのまうみやうのそうは
まろくやう（塗）てひもいおそいまそ（籠）
こまよう（折）もなまをあをまあ（半）うたみろう
十三（白）まわ形ろもそこ三すをろうそこ祝て
てのおもそのへろをおふ
もゝひそにのろおも（遊）ろをまそ、ひそ
ナもまを（長）へろうへ（大和）（遊）むろをろ（柱）ふ
おもも（切）そへてなの付うむろみそをそ
らひとくあてうち住くそうち
ナそとにそ（柱）らもの（臀）とちんをく（外）

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

ひらめるまくら丹や（平）（紙）
まくらのやうにつくものなわこもそ
かうらいのたくみをもて（高麗）
おりあやをそおくを（奥）（端）（透）
おれりそりに（中）（開）
ことをあやうくしたまくら（階）（隠）（繧繝）（繝）
二帖をおくなそらにそへてうひんなり（西）
てうするまうひんなよ（龍）（贅）
をくそ枕もとの一（青地）（錦）
まくらなり

るをこすたりあるを（濃）
うまくらをつけたり
一（茵）
丹なのあやひるをも（唐綾）（堅）
宮うをしまそして
おり（織）（物）
あるうたてもよ
（裏）
うちうりそのあ
奈のすらにあてし
そのたくみよ丹

[illegible]を把(押)うちうちにまろくして(組)
うち上のうち(層)れ[illegible]
[illegible](匙)[illegible]もち(鉢)ありもに(端)ゆもるつまもとくくうつ(淨)(杯)(臺)あり
うきものなそそを(押)[illegible]神[illegible]
みれ[illegible]をり(下)(層)[illegible]
[illegible]をくくりつ[illegible]
うちよのまり(折)(立)[illegible]
□なそんのたの[illegible]
つくりくるそれまり(仰)(噛)(壺)
[illegible](乱)[illegible]
おそひそそそ[illegible]
そのうち(開)[illegible]
[illegible]
その二つ(階)のうみみ[illegible](唐)(匣)
たつ四くくみそ[illegible](小)(鏡)
そのやう[illegible]
そ[illegible](鏡)[illegible](花形)
[illegible](讃)[illegible](手巾)[illegible]
そのていくくきよ[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

そのそれぞれ張
のたち居唐笠上
かたそのくに冠燕尾
ありたるそのもち領巾
持のねびたるものふ二
もちあるをたなごころ中
ある形をうくよりそ手拭
へそのうへに汗衫
あやのこしまきをまとひて裳
それぬひもを腰長
ちぢかもそめて袴細
くへそのうへに襠
あるそのまへをたくしあげて
なのそばなどにはさみ
このまわりにこしらへつけてそのうへに
ありかにひだをとりつけ組
あるひだをとりつけてまへ前
もうへにそのうへにまた
このまやうにしかけてみな
しかけてみな

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

内裏（障子）
狭
間
狭間（深）
後
端（道）
和
和

面（絢）
高（松）軟（障）
嵯峨
衝立（障子）
龍（簾）
緣（錦）
押
縁（縞）
寅（廿）

ひんぬきうそくをたくへわたしひんぬきあにをへこのまわの
きつきもくもおいあけてうちへ
をはりそこのきおにるのゆへりそ
書あらたへこもりあらへるをあらうの
きうをたこのうへもあそこ
下たへてもものへをおそのまきり
垂こゝのうるなをものそたまあをれ
てをこすへすもけうそれあらへ
ひんぬきをへこのまわの

なのかへ
おもてのうへ
おもてのそもたに活花をおくまをおれこをおと
おもてのうへをこすへうちそこのをうち
南のきくこそをもをくらとするものをを
つちおのとふそのうなるをを
すをそこらをたそまをへてうちそこ
てのちおこのあのもさらをかへりふ
多くこれをそをあらく

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1　ガラス使用

吉 用
公家の日をもちてたつへし
そのうへにうへにとらのすみのそのうへ
そのひらをうへにうへにうへ
おのおの八帳うちの四帳四北あるおの
西のあるをすこしそくうへにあるをそのうへ
四のあるをすこしそくうへにあるをそのうへ
うへにうへにうへにうへにうへにうへ
帽 額 幅 壁 代
うへにうへにうへにうへにうへにうへ
表 長
北やうのそれをそれをそれをそれをそれをそれ
うへにあるをそれをそれをそれをそれをそれ
中 折
うへにあるをそれをそれをそれをそれをそれ
事うへにうへにうへにうへにうへにうへ

陳氏一ひらをすこしのそのうへにうへにうへ
さ南よりうへにうへにうへにうへにうへ
ひらのそのうへにうへにうへにうへにうへ
あうへにうへにうへにうへにうへにうへ
すこしのひらをすこしのひらをすこしのひら
なんさそのもうへにうへにうへにうへにうへ
南 東 西 床 簀 庁 高 頂
南のみなみひがしにしのかたのうへにうへ
のそのうへにうへにうへにうへにうへにうへ
こそのうへにうへにうへにうへにうへにうへ
やうへにうへにうへにうへにうへにうへ

結 むすぶやうにしるしおけるもの
隅四 ひらがなにしるしたるのすみにもすこし
中 やうにしるしたるもの
寄几 ろにしるしたるこの手紙のやうにかきたるもの
濵床 ろにねるものそのうへにしくもの
居土 敷 のうへにまるくしるしたるもの
中 ろにまるくしるしたるこの手紙一帖なのすみ
墨 やうにしるしたるもの
唐綾 ろにあやのおりものをしるしたるもの
打裏 ろにうらをしるしたるもの
表 ろにおもてをしるしたるもの
遮 ろにさえぎるものをしるしたるもの
文字紫檀地 ろにしるしたるこの手紙のやうにかきたるもの

小几 手のこときものをしるしたるもの
机 ろにつくえをしるしたるもの
織物 ろにおりものをしるしたるもの
衾 ろにふすまをしるしたるもの
沈 ろにしたるもの
机 ろにつくえをしるしたるもの
紅 ろにくれなゐをしるしたるもの
寺 ろにてらをしるしたるもの
紅 ろにくれなゐをしるしたるもの
練糸 ろにねりいとをしるしたるもの
針差 三たりをしるしたるもの
縫 ろにぬひをしるしたるもの

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

うちまき
そのたこ 二枚 帳 一張 屏風二帖 厨子 一雙 前 置
ひまうきそて一ふくろ
うちわちるさまかつ 厨
そのうへ 東 すた 層に 香 壷 合
きやく 藥 壷 二つ
ふくろ 角
ゆきそのさうへ
てうのつぼ 銀 壷
ゆきまうのさうへ
つぼ 雜 入 生 針 差 雲 母 方 梅
花かつら 黒 侍 従 薫
ものつなのうへ 差
ねそねひて 上
ひらそなつくる 折 立
事あり 三 金 四
大 おもひ 磨 鐵 匙
あり 秤
ものやに 箭 筈
向 筈 銀

てたつへしたゝし弓のひつしさる（未申）のすみに
たつる人あらはそのつまよりうしろの屏風一帖をたゝむ
事もありまた几帳をたてまはりてそのまゝにも
連てにしのさうし（西障子）にそへてもやのきは（母屋際）のみすのきはのそとを
隔てたてゝはしめたりとたゝみあるへし几帳
帳のかたひらはみなまきあけてにそへてゑかう（衣架）二つをまき
みなみ（南）おもてにたてゝそのうしろに女房の屏風をたつ
帖たつへしまへにたち鏡をおきて筆をつゝみ
このひとつをたてゝ屏風もたゝみたてゝまた一
おしくはその事をときあらはさうそく（装束）のことを

あらはゆかのうへの御座をしきてその下のこしにこまかにたゝみ
むけてたゝみのうへにおきてこしひきのへて（腰引延）そのうへに
すそのかたにうはき（上畳・衣表着）をかさねてこうちき（小袿）をかさねて
一つをとりそへて袴のまねをたゝむやうにせをり（背折）に
してたゝむうへにかさねてそのかさねへしてのちに
三寸はかりのちをつゝみてうへのをりめをとふらふ
そてのからきぬ（唐衣）あらはそれもたゝみてそのも（裳）の
うへにかさぬへしもをあらはあらたむへきにしたかひて
ひきこしのかたにかさねてしかるへしこしのほか（外）のかたに
たつとあらはいつもかはりてもあらたにけたかくあるへし

むかふ（向）事又ましきやうなるをむけてつくるなるあるには
しやうしのあなたをひんき（便宜）によるへし
又そのしつらひ御帳のおもての一間なとは御前
にしはれ（晴）ならはにし（西）のかたへすへしひんかし
はれならはもや（母屋）のひさし（庇）のてうと御帳のひんかしに
あるへしかやうの所にもはれ（晴）によりてたつへしたゝし
きさきたち（立后）のひはにしはれなれはにしのまへにたてしやうし（床子）
をたてらるゝまへはもやのてうとは御帳のひんかしに
わたしてたつるなりさるやうもあることなり
てみな（手皆）おき（置）やうにしの御帳のにし（西）にあまる

つるやうにはにありひんかし北なとにあるへし
ところへあるへしまたひんかしにても西にあり
つるやうに帳につけてをくよの事ならすまた
又さき日はひさし北におきてうと（調度）もの（物）く（具）たゝみ（帖）二つし
屏風すゝり（硯）わきそく（脇息）なとをく所をそとわのく
一ゝ屏風をとのまへにたてらるゝ事もありたとひのたひ（度）の
御まゐりてけんしゆん門（建春門）の院北のたひの花山院北おとゝたゝまさ（忠雅）
北まうて屏風をのわたひんかしにわたしてたてけ
のまへにしゝこま（獅子狛犬）いぬこ（御倚子）しをたてまつりかう
ゐんかしにならしてたてまつる屏風は表にあり西

むくへし
大しやうじ（床子）にハ殿上のかたはらやのきハ（際）一段のちのきはなり
たかさほとそのていらハすのこ（簀子）にてなかのさふらひ人
たちわありのたゝみのさふらひたちわなる程ふとうそし
あらそてすゑてうへのうらハをまつたんてられ（半帖）
やうのつちうら（打裏）をつけて畳そのうへすみのゑん（菅円）
ざ（座）をしまてりそのまうへ（東南）のすこたろしとらし
すらかへてさふらひのまへ程たたかはうて（円座）ゑんさ
ざうり（草鞋）のさきくしはのみすのあけつらしきあまつり
はしをまいて（間毎）半てわらはしはのゆらの
たちかしの（立）ふしたてまつりもの日ハ階（階隠）かくし
にいれわまのまへにまいり二本をたてゝてまつる
つきのきさ二本ほかをさの日ハそのまゝ（其間）のむかしより
するやくあさあまり一帖ハしハつれおりまつり（内）
板のまへに一本をたてまつるおとなう
祓つかうおもくのまゝまうてひろむしろをおとし
くみ（組入）すのきようれすみにあつても（母屋）やれおく（奥）
ゆるゝ祓のかまち（縁）にくりかた（栗形）のふちをそとつりを（燈籠）
えくへし女房のかいもと（筓）われ（要）くれ
とうろのあかりぬ土器（脂燭）へせとをしつけそそくし（所）

あらそ(顯)ひそへよ(吉)のみ日おそきてよめる日ふえ(贄)
殿おほ(大炊)のもとにたてまつれ(給)るをみて
そへ(ひ)つかはしける
きそらともうろ(ハ)まてそへ(ひ)つかはしけるやうにせよ
うつ(ら)にあるへ(ひ)
ひそ(ら)のかま(軒)とうろ(燈籠)にかけつ(綱)るをみてよめる(畫)
すそのわ(輪)ゐ我うへ(上)にそへ(ひ)つ(迫)
そこにそ(ま)ゐ(ひ)ぬ
うのそや(ひ)そ(ら)(具)のあ(虎子)くにうてさ(莒)のそ(ら)と
ふそのあり(躰)そのていうるそり(羅)(冠)ふ(笘)

おなまそ(蒔繪)四つくなのまの色ありうるりの
そこにうたふへ(ひ)そへ(ひ)つ(冠)
にそふあそすのたまはむこ
そにをくへ(ひ)(置)
あそ(ひ)をうそ(ひ)
天のかそうそ(ひ)ろそ(ひ)ちま
あるれわ(塗)ら(籠)れうそ(ひ)
(ひ)

おなまそ(ひ)(女屋)(覆)(御簾)
るそ(ひ)(晴)(表)(裏)

おもひこしぢのうみそ
一下かりのひるまもふるそらのうへはひとつをひとりながめつゝすんかうつれ
なきよなきよのあけゆくまゝにかすみわたれるのきの花
けてあく〳〵さすすのうへのこよひのつきをまつ
しそのうへのよふかきをすてあくるまの
幸たいまやうの徒
ふもひとりもあくるまをとはそやいもうとの裝束
すくきつゝそ待てまもる。よの更行

きつゝそ外のそらくもふかきよの額
よくひなりまし廷
やにたつる十二帖の屏風
そものとはいふもの屏風
ひろきそこそもそもの春
たつるかうやひそ
つまもも屏風をたつ
たつまもち屏風を
す屋そたつるかわきそ
ともあをそる形

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

みうるそまよ（母屋）（除）
してそのうへに屏風を半ばかりまでたてて
そのもとをうちそへ（遺縄）おもてのやうにおもてを
ここのつのひさしとしてそれに屏風などもち
ひてまもるをまもりの法（所）といふ
をり（狭）とそたてこめてまもりの法
あんとたてまつりてまもりの屏風などをなんそまもる
たいさんやうの古史（母屋）（大）
もやひさしたいさんやうのもの（饗）
けつかひ（使）のそのもとにおもてのやうにおもてを（各）
するとおなじやうにおもてをつくりまつり（指圖）
やうはかう（高）らいの畳（畳）のやうにつくりまつけ
たりてこのうへのみのやうにつくりまつり
に（寵）（賢）ひれをしきたりまたいさんやう（導者）
まろかしたりてこのうへにおもてをおなじ（四座）
やうにつくりまつりてこのうへにおもてを
おなじやうにつくりまつりてこのうへに
畳のやうにつくりまつりてこのうへに
らいのへだて（別）のまもりのやうにつくりまつり
をそしておのおのそのやうにあやをもちて

（臨時客）おやくまつり（祭）
（饗）うのもの（饗）
たいさんやうの古史（母屋）
もやひさしたいさんやうのもの（饗）
けつかひ（使）のそのもとにおもてのやうにおもてを
するとおなじやうにおもてをつくりまつり
やうはかう（高）らいの畳（畳）のやうにつくりまつけ
たりてこのうへのみのやうにつくりまつり
に（寵）（賢）ひれをしきたりまたいさんやう（導者）
まろかしたりてこのうへにおもてをおなじ（四座）
やうにつくりまつりてこのうへにおもてを
おなじやうにつくりまつりてこのうへに
畳のやうにつくりまつりてこのうへに
らいのへだて（別）のまもりのやうにつくりまつり
をそしておのおのそのやうにあやをもちて

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

うらよりうちかへしをまゐらせてこれをさんさ（濃　打　裏）
ひやうふそうのほそ殿にてみすをあけひのおましのるを
まゐらせて十五日まてちんし（鎮子）をかまへまゐらせん
にまゐるをまゐるつはものこしをやまい（母屋）のみすを
おろして五つ屏風をたてゝとつはものこし
ひんかしたちのかたは北のたゝへしにはかは弁
内侍のさかりひんかしはまゐるにはひんかしはひさ
しきを弁少納言のさ（座）はにあるへきより屏風その
おもはこの少納言のさ北をてこそのまへはたゝへまより
きんてんはみなにし（西）のひさしをまゐらせ

あさこのひさしはまゐるはきよきとさりてはかしこく
にしのひさしのみなみによりてみなのすけしたる
おはしまして、しもしもみなこのまへにゐるは
にしのひさしともや（母屋）とのまへのきは（際）にはまゐりて
にしのひさしのはしのおましあひをへたてゝはなち
たゝみしくみなのさきに弁少納言のさはそてまゐるこれみな
あゐんのたてこ三きちやうしまてそのまへこのかみの
さしはのとはしのつま（妻）と（切）のきはのほこ（鉾）
みえし（立）はしは西二人たてのすくしてつまとのかた
かりすそひきいりてまゐりてゐるひんのおもて

の恵みさを一枝まで大年のさをする所らの恵
みへ北山ひろを三みへくて吉てあり三年ま
あるそ(悩額)そう北生さたひ一(縁)をそあくさ
移ものの春北さ北つ一ろれつまの君民ふま
原乗多くあけるのよ北あるそう
北つもまくへ(饗)
ほくをなさそくまやうを
北生(賞鴈)たそひてそ
ますし生北なねのうち里
原りそうつを共ひろさなる我つそ(机毎)の

まるたくなり年北史のそるいこなかけ
みひそもるま吉原まて(鎮子)
ふつくえあのすもの所ら北
松一生(軟)そう(障)そ(慢)のやうそ
約(高)松まをれたそ(四季)のことを
またりの一□あるのひるまへ所むまま
いそあるそ一まそしるをこのうへそり
孔ら吉のの(絵)をこまたれ委をひんへのそめ
てひへ一そやのこのそう北生そのまま形

あてひく（紐）
つ糸（具）
いこ（慢）
（下）
（丹）
（緒）
（儀）
（間）
（座）
（大壷）
（母屋）
（大廂）
（母屋）
ひんこの（紐）
たゝこ（座）
をなさ大納
（母屋）
（大廂）
ひさし（母屋）
うへのみ
つるとゝ
を主ゝみて
ひやうこ（脇）
圖（座）
（指）

袈裟の事（鈎緒遍模様）

上のごとくに法衣を着て内に白き衣を着（除外）帽額をかぶりその上に袈裟を懸けてあるのごとく肩より懸けて左の脇の下にて鈎（便宜）にてとめ置くなり袈裟の色（栗形）は墨染（津緒）なり

袈裟の縁（模様）のごとくなるを（袈裟）重ねたるごとくなるが（細長）袈裟（袈裟）なり

中倍ほどの袈裟にて（袈裟）あるなり

おそれ多き事ながら（大領）おのれが身の上のごとくに思ひ（領巾）袈裟を懸けたるを（袈裟）脱ぐときは（赤衣）ふだんの衣（衣）を着るなり

袈裟（袈裟）は（陶砂濃）ふだんの衣（衣）を着るときは（品々）ふだんの衣（衣）を着るなり

袈裟の色（色）は（芳）墨染なり

衣（衣）は（尊者）ふだんの衣（衣）を着るなり

袈裟の縁（具）は（袈裟）金襴なり

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1　　ガラス使用

あるは北座などやの設けそれ
□(主)すべへのそんさにおりあ(下)(逢)ふなひ道などもの事
さもあるそのよろをさらに(皆)又のちわの(昇)てのち
(座)さよき吉のむまうにすの(皆)えさ銭もつきそすのこ(簀子)
ありくことあるそのわらう(四)(座)
(皆取)ろわらう(四)(座取)ろそあるりうそひ(位階)
そうとろへ
(内覧)ないうんの道(家)はそやの(毋屋)たいさや(大)(饗)うなすものたい(朱)(器)寝と
あるきしさろるすあうろ君
ものにおりするありそむさ(台子)(机)下のまと家

ふちそ(盤)たまんをすま事そかうへやうあう
(饗)そうをすあるちたいそんのて(尊者)いそんも(向座)
たへ(横坐)よろその大納さことをいむのひさかり大ん
(中)ふろなのをすのそ(撥)あをきてさやう
をすあるその墨(中墨)あをつかのに
わりて(縁)ちかう(上)はろのなまあるをあ(撥)
おろふりそのたんか(國)ふれまねをやん(油草)にまるを(炭櫃)つそ大ん
ありのそよ吉のありりうへらのすさの
そへそ吉くりよの極ろんのすさをかすべりの

角 鯖口
ふるのやうなすもゝをもつて
高家 家
うるうちの家のいもとをすゝめ
折 撓
おりやうするひたゝれ
うまる［　］つくりけま
とゝろおり［　］そん
憩 牛 舩
やうすゝりふね
作
ーてをくりもゝ
近 幄
ちかく三人のあくを
床子 尻 懸
るをたゝちそれいも
作 嫁
さの那よおいたゝりそのあくハさのうゝ

上 違 部 厄上ひと［　］
尊者 牛 飼 饗
［　］そんさ
祢 馬 舩
のそれむかものやう
上
［　］のうゝ

慢
うちそまんをあ
時 客
りたゝそ
おやくのこと
臨
まゝさやれたさう
庵 尊者
おそそうゝいを
饗 高 杯
やうのたるまよて
居
人のまへよりそ
うそあそすゝ
使 出
ゝのいそ
立
たち

対 南
たいのゑみ
上
まそ
尊者
清
座
鯉
切
座
上

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1　　ガラス使用

まほろかつのひれそまたちむ（對）
ーるをーまさもるをきの氏やまこをこの仕屋
風をたろろとたものとーひそーまこをはけば
舞人の座にいたくこなと土つの氏ひろもろのつへて
いつもも（出雲）ーるをーくそのいつこをすの（管）
四座（四座）をこをまそまひかのきとにろうえ（上達部）
れさいうらなのみのうまう（龍）ひん（贐）ーまそ
そのうへとうあの土ーるをーくうろうーまの
我をそーるろうかのまう（新）うくるをおつく（設）まなり
うえなもめ三ら（献）んのまう（粁）
ものうをこをあろこ陪たのさいこきれだりあ

きろてお（饗）
有あるーのーの事
有あるーのこをうそくのやうい吉んてんそ（寝殿）
ひそーのたいさやう（大饗）のおーを形ろ花手
有（者）ろのそまく（将監）きう（将曹）さんのひんまのらうれなし（廊）
あめん（西）へおのたくこをまくまやう（将曹）きう竹のそた
八つ（別）ろまろをーまてらうをこーるた
すまろなもたんのくそやかるをたろこもお（縁）の
へおたんてくふをれの道をいまん

ちんのそこ（西）のすみ
さしよせてすこしすきのへて
あり（幄）
（紺）ものあくるひのきれ
たるそ（藏）人あるひ
ともしひをとりて
ちんのもとにおきて（役）
はつよる（異）人をも（折）（敷）
おほくおきて
（折）（敷）
すのようにおほくおきて

（折）（敷）
おほくおきて
（牛）（長）
（陪）（膳）
（牛）（長）
（燈）（臺）
（杯）
（燈）（臺）（油）
（指）（油）
（居）（晉）
（元）
（油）
（鉄）
（掫）
（具）

たいらかのゐんざ（穏坐）とハさきて おほゆか（大床）にをり
みそかうふなとて つちたかつき（土高坏）をしきをりたし（肴物・折敷）
たるさかなくうをのをもまくらきて いものかゆ（薯蕷粥）なと
まいらせて さいはら（催馬楽）あなたうと（安名尊）なとうたひ 箏びハ（琵琶）
などあそびをもしてえんによせる一世の源氏の大将こ
なかのくるまにあのやくかり人とる草草の花のよ
のきてそれらへ敷にまゐりてすのあたりさしくるのれ（禄）
まさひハふてそのをりに□をくまり□うへ
けやくをしてよろさむ殿上人□のんな
はふかりの弁少納言のまたやくまへ少納言のまへの

まへよりもまへこれからつくものでてえんきぬハいる

五きちやうのこと

五せきちやうハひんかよれにもよさへくうちのはしてハ
四きちやうをもや（母屋）かきりにあるをなりそのうちのひさし（庇）に
おのおやひさつまきを帳のまへにたてひて出ゐるに
かけてそのうちにあるへしかへしろ（壁代）かなひまのりてはく
へしもや（母屋）おはにはそあきてうへさんあかとも
まつをそへてわきことのすれにあまた見みえても
四尺にてもから（唐）ゑ（絵）やまと（和）ゑもちたなりとたてまつして
そのうちにかうけんに林をしくうつくしうせなへし

うれまへのひそくまうけん二位をまねてうのうな
まうひえをくそのう（まうの玄くこえの
まへをそろひてまひんまのよるへ一四分の
屏風のたてもの（物具）をくてるつのまとそ
ひそくの（在）のてうと（調度）れて（躰）家のう
まやう（鏡臺）たいなるまいあるくうとも
ありともに（二階）の名の玄てなそまくへ一二うねのう
芥子（胡粉）をうまたなるまのまうへてそしにまそろ
あそうひそくの（夜具）たのもろのの（調度）れまいひんまのまう
ありひそくまのまうまへまえなたうへ一うう

らいもうそまのまえまてそのひてちくへ一そ打ちち
ちんす（鎮子）とくをえよもりろなまくそ一打ちあるまよ
をえのもりろ玄のねそいたまやうのみ北夫のそたに
玄のほのうのつまれありうまへまえまてを（出）（運）そふそう
らいを一枚帳のまれをえ北まそてうたる重よとう（東）京
のまてまのまえをまそろうそのひちよまへまそ（出）（銅）
をくく（置）（風流）うこそろまえありたまらのまだけた
ありともにまえまてをくへ一とのくありそのまお
汁のまへうまするへうまてう（排）（鞋）をや（柳）（箸）のふるまそ
をまそてあり（彫）（櫛）（蒔）（櫛）まのくへ一うんそ（箏）をそてま

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

せもふ　とよをまよまうるなりひめ君のきそうなの
元の姿（舞）ともにいなとも（取）わうみ（錦）もの（縁）百わ法士とる
三尺のおよすと残くてのそをを反上へもの
これをりつよ（夜）のそのるまをまうまわにるでもそ
ら士もつひ安道よそわさうそもそのるの
ひめ君わ安せもふあそ（髪上）かみあけのさうそのはとを
きうそくいよのそたそるる士（車）の朝（相）あり如君わくる
なわおり（下）てる安せもふへいわそ法道やう事ちの
ひそかに（閑）ふのくるなわうるなりひめ君のなる事
おりわ（下）道いとらいもつのひもそうそくをねな

をまそきうくをまそ君ねなのこ安せもふのあい
たいひめ君いそそふふまをまやまらふまをまもひ
ひさいーひめ君のうるひのさうそくことろそこと安
てうもうこ（打乱）わ扨そうこ（髪）ふらうもそ（髪）ふのあそよい袖そこうるそ
おくへーまらい士もうるそるあのらたもへーぬま
ーてよくたくこそ扨（帯）おびをもちてゆひてをくー
まらい扨うのをう陽うるそるあのらたもへーぬま
法うてそなの袖そ物の（忌）ふこ一度に（切）生のそうこをたくこそ
あのに道そ一てよそ（夜）（海）とに四すちにくそわそくに法く
一一相こそいそくみ（飯）（續）銭つまそまわそつくるをいこ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

しまそらよすれどもあまりにうきてふかくところなきわ
まいりとよそくみをつまそてきようらにあはせてつけゝる（清）
ありけれはいかほどせねはせちゑなりまいらせ侍る事のこひ
多か於とうそくをこきそまいりて申侍るなり申て
こさうふわそ袍はなは丈まいりひのもつかさるこどあり（裳）
つゝらにうちいてはまいらんかまの佐とあてたの（長）
ひつは浅袍てあかきぎぬの体すゝみてまいるを（櫃）（赤衣）（舁）
三尺あまりは事よきさけのほかのまにはすへし
やはりびんぎなるよるへまかなまれのたおもとのる（屋）（便宜）
または三尺をはいりてなかをしもわらはかきうそく

をとをいはんかたなしうちいて四具にはくはくしつらん（具）
四くありていふはへまかとかるあまたあらはすまらいはさう
そくぶよいふはへしうちそのさやうつものこらし（打出）（仕攅）
多せちゑのうちてまかうはさ形うちもまねのうへす
うらまねまてあるむかたいの月みいふはへのことに代
人のひといふは人のあつみてゝをわらはのきうそを
いは事はくるものかいふはやうにまへたいの申すに三尺
きなかひきくゝしてそのうへはいの衣とのきわもへと（汗衫）
きひまくゝしてあこめそそてまらさきうちそでおく（袙）
かゝそてるとのいふはなほそふまいわかけり

[illegible]
まち(泥)て(繪)
[illegible](決)
[illegible]
[illegible](目遠)
[illegible]
[illegible](龍瞻)
[illegible]
[illegible](下仕)
[illegible](裳)
[illegible]

(壺取)
[illegible]
[illegible]
[illegible](君)
[illegible]
[illegible](諸鈎)
[illegible]
[illegible](右)
[illegible]
[illegible]
[illegible](清涼殿)
[illegible]
[illegible](平緒)
[illegible]
[illegible]
[illegible](仁壽殿)
[illegible]
[illegible]
[illegible](清涼殿)
[illegible]
[illegible](長橋)
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

あり（明）
まゐるまゐるあまたあり（損掛）
まゐるまゐるあまたあり（紗代）
まゐるまゐるあまたあり（次所）
まゐるまゐるあまたあり（東帯）
ひわうのもんくつさのをあり（前駈次）
きんくまうち（衛府）
あるかなの（束帯）
ぬきたるなどすべて（位冠）
たるをもをへもむかしの（袍）
むかしの（袍）
ぬきたるなどすべて（表冠）

元めの元の七うそく
うす九日　あかつきの（地摺）
すもうみあこひとへ（重）
そうぞくまゐりたまふ
まゐるまゐるあまたあり（染）
まゐるまゐるあまたあり（濃）
まゐるまゐるあまたあり（紫）
まゐるまゐるあまたあり（末）
まゐるまゐるあまたあり（目）
まゐるまゐるあまたあり（染）
まゐるまゐるあまたあり（裾帯）
まゐるまゐるあまたあり（須巾）
まゐるまゐるあまたあり（泥絵）

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

假髮 蔽髮 髮 上 設
まろくへしすゑひたひかんあけまうく
釵子
うるはしきさいし四はしあるをかうかいのやうなく
唐 下 彫 小
からくしさしてほりくしこくし
絲鞋 藏
しつのいとにて練らいくらのたにほうつく

たつの日

青 褶 背 子
あをきはうまれのからきぬかさねてかさねのま
目涂 裳 裙帯 赤
めそめれもおほきものくんたいひきかけあかの
平 手 貝
ひもをもちてかいいとしつれ
菜
にかもこれは松枝あをすきの扇あておほく
すみそめのさうそくすゑ経のよいいうきゆにもつしの
汗衫 白
うちみなちてあやうすのきぬの袍みなてたまねしろく

瑩
ありてやうしてこそおうちうらとつくおこあすへう
そ所あをそこなひへこそふうちまねそおもちもちうの袍
たちまつやちりたちのまをとうへのきぬのはかまのこしの絲
腰
こしをとこさなはなるへの衣にになはなもんすへう定
貫
おもれひあてさう情のちゝの袍につらねまそてすゑ
よりひきかけはなやのそこもとうへのきぬのまの衣の
うすかりそそへひきかけはきしつうくてこさる
のちこのまとかいうふかり衣線をとりてすそらいのきる
ますとねのきてこはなうへのきのちのきぬたまくら
さるは線はまつあやのきぬのれうしをゆふきそてそよわ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

いてうちところへひきあけにしてたか鷹のきをし旋子
まつうへむとうりもにはふやうにむねへいくりいくし
なをとをねりむれをとひはるかうきてうへのかたのまい
かきやうはうへしめしてこうしをとひきあけてひかり
はうしろ手にてまに鈎さはひていくさきのわうらい
こしかをしうへしさそみちちょう張をかはかま袴れ
はうそをとなるくひろけ出すてくすそちられねひきをを
うへのかうしてうへのきくのまきをとのこの宮すす
してゆるみ幅をとうすはしへあこにわをとりうす
うしろ手ゆそりてうちきねかとへとりのそるて

えひをとくはにのわすゑてひとへきてくねをくそせを
こをそをとさて二へ身をまくはへしゑひをとよくひよ
ちうとて上へかせかまへさそくきて下帯ひきよせて
うしろよりかさてまあの手をとよくをしいまそ
わきのねひきのまへのくをとかそうしろのなれ
弟子すはまそてゆへをうへおうしろさきに
ひきなはやうにゆひおさきそむひをあそく
うらうへ表のくにへしおひきむれをそたけ一のそて
をとかてくひを外様とそとものよをとなりて前はうら唐
衣まわきるやうはくをいさけてうをよくをとさけて

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

なでふよさしもろともそやは
わらは(童)さそつそく九寸ほう
かたそみ　吉わ天ま三尺まへ天ま吉わ天ま
三すをくるもの(帯)て九ひろおよそ六
すくるてひろま(前)をもとはかわおれ
ふひ(上)かたひ(廣)ろに仕へそれよひろさふ
九ひろ天ま三尺ま天ま三尺ま
九ひろ天ま三尺ま天ま三尺ま
ふそわそ(直衣)をもちて(無)九天三寸

うへ(小幅)なこの袖(足)あわせ(継)ほそ天三寸
すそ(裾)九ひろまよりまへまでよ
う天三尺ま三尺ま
あこめ　たけ四天三寸ま
ろさ天三尺ま三寸まわ七寸まあくる
かさ(ゆき)九ひろを九天ま(ゆき)をもちたる
う天三尺ま三尺み(三幅)ほをひと(一)九を
よねのなでふをそ天三尺ま

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

(結)
其ひもてさゝをつゝ
(カ)
むすびをきつゝ
なんどうわさをひ
つゝあまたゝびもそれ
をきゝてさゝをそ
みすけれたのゝ(髪)
まのそゝたるのいとゝ
きわれそのうらにつゝ
ひきまたうちも(紋子)
ひて(耳)
ふうなどいふ

きのわうちなわうそれまの(雲鬢)
ゝくひきなをてさゝ(髭)
おもてまいうちのわれ
もちす(透)あふぎ(扇)
ふくみてもそゝ
さねのまよ(開)
ゝうをくしてする人
やうもそゝ(家)
あをもれいわ四人八人をあるいこけい(御供)
れ女ははゝ(代)

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

つひに人つのりわれをもとのやうにもたせ
六四人あるひは元のごとく陣をおもてをふせ
ようにしてもたせ迷うなわち手越こ
をくらべあるをてあるを我が主もつ
ひさしくものさして御前ある
つまにてみるわちの
随わがものさして先北
そうをそうして陣ある
たてまわちて主もつのそをまえて陣もの
がち殿上人まわちそ上らうれひあ天なわーで

おろかにそ多うをもちんわをまもるべく
装束司まうけをーまの主もつのひをなわて
うちにひわれがまた銭子をうもうわ
がそれまた家を八人まつひ四人れをつ
をとわてまーもつのひをてものたのま
をまよわてまの主てまわまの主て出て本の
つまのをまを右がだやうのうわて
へまつまをまをつのにもひあをるをまを
とるといふなわをれいをのーろのこをまを
ばをあるろ中ことさ銭子がをといわ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1　　ガラス使用

たわ寸ねのまそいたくらのまにくもひろけて
ひるまでわさそのち参の元るまで女よ
ときそくまわ参をおもて吉てまいまさい生
きて殿上人つまそて更ちころへのおなあまの
ををーをそよひまそわ参おもそくおちまら
ハ二人うを汗衫元ーまつへなひまそ元ちなた
吉まつのひ四人吉てハうのおちつまそおそき
たるうもよひゐ元をこらせくまそおもう一の糸
元更をもちひゐ元参をハとこそ深ときまいる
おそのもうへ一参ハえ開のうまわやそ

それなるてきうらのまわひゐ元わらハ
吉てつひをわそとゐわてこ二ハのもるたう
まお元ま吉ま仕たのこそ試ことハ吉まつのひやそ
ほそわ吉うのもる参人ありふきわ
をね吉深のゐてこときまる人ありふきわ
随わをきなもまわ元ゐもらゐ参生
ハあうゐのハ衣ゐそあへ一の糸九
更をもちわハ二人吉てつひ四人うへこと一の糸
人ひ深の一二人ありわらハ吉てつひのきうそく
ハつのこと吉うへハ清あこようも

まねひとへ　そでわきまよひ　こあらもにころもねぎ
ひとへもの　そでのをせばまりなる　ぬひめ（泥繪）あるまゝ
をとりひろげたるに　ちんよわ　ゑをもちゐへるまゝにて
ゐるわらはなど

さうぞくのさまをまねるなわまのへからまねのや（唐衣）
うにひろきてはゐながらうしろあはせ（代）
せたがわてわらはべの上のきものやうにくるまわ

おほくはそくあるまゝにいとながくうちもをさ（扇）
ふくつ（袴）子（鞋）　きのいとうつくしきあまをはかせ（服）長
まゐそゝきまゐそゝきまゐてわらはべのもを（下）
ねひとへをまゐておひをかせ　仕
つのひだやうにをそてまでなびかしたるを
したをそくさゝをつゝ　扇をさゝせ　糸鞋
著をまゐあらもまねひとへをうへにきて　下
ゆ（二幅）なる　末濃　すそをひきたるを
まそくわをまゐてうへ　裙（滞）
をつけてうもたる（船）　紙
をもつ女わらはゐて

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

たのまんとうたがふこころもあるわそれをばさっ
てしまへとおもふこころもあるわそれをばさっ
てすてんとおもふこころもあるわそれをばさっ
四つまでそこのわかものにすてをいてしまへ
さねのこころまのおやのわれをうしなふこころ
ばうがわれそのものをうしなふこころ
おねの神生てまわれをうしなふこころ
ばかりてそれをばさってしまへとおもふこころ
そをまたうしなふこころをそみたのまつまね
てをまいてまねのそのひとをわてうへまものの神

をわがのくやうにまいてそれうしなふこころ
わがまつまいてそれうしなふこころ
うへまものよひろくへーうまのへてさねのそのうへ
そをまいてまねのやうにしてからまねの神わが
そのわひまいて神そのをまくへーうまのへてさねのそのうへ
出ようにこの宮形わこのそのうへ
よをまいてまねのうにしてそこらの
まいてにひまいてそこらのうへーさねこまねをひそ
ひろくへーうまのへてさねこまねをひそ
くそをまいてまねのうにしてそこらの

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

まくら絵のうらうへのすみにまもりをおしてわらひ童
ひこいなとをみゆるやうにかきたるもあり
裙裾
袴のすそをとりてふみしだきたるもあり
ーつゝまもりをまのうへにそのまたあるいはのもりの
おやーつゝまもりわらひをねりてをしたるもの
みなれ小ぶねにのりたるもあり
車をそうそうまいらをとゞまりうちの
あるへーにてをつゝあるへーろくろまきたる柱

うけにまくらをあくるもあり
のやうにひまいてそれをふまへいるもあり
うちをそまねれ法方をひまいてなれ
ありたひらにうちをまそあるへー四人あらひ
まりまへのをてあくーあふまをさゝをかし
ゝをとゝる
雑仕
さゝりれをむまにのるへーくるまにのまゝち
開
らん衣ゝありくまなりさうそくを移の
ゝをーゝをもちのうへ雑仕
ひたゝれ
ひたゝれ
のうへまなり女ゝまりまゝうひのそう

そくまいそく（半）物ゝさ
こそ行くなるまさねまる
時そひさうそさたまぞ
多つくらもその車にい
きのりあるへ一うこそ
あ（柏）おい片くうもさねひ
ことと
（文）みをつ（裏）むる
如法まいりむことをりな
ものふさい（得選）もんそふ
のあるまりこ并も
まにれまこと
（開）（路）小女ぬまいり申をまり
つきた
のまつ称の

くらへだわもえづまれ平のてなわもうるかま
けまうみこ其法のそひをきのまたその平のあまそ
まうなるみそるそもめ一中つれもにたもう事
うくことをいその平やのまわれわれ
あひてこれへとなわそのうち、井つのさまわ
（妻）法をいて中のん（廊）のらみ（縁）えんまわまね
おそそうじて人平のくて一女市のくわもの
うものくらへふうそ（透）すまわ（渡）夏ようう
頭への（帖）毎三一帖ま
ちてある（菌）（東）

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

遠きをそむ（幄）
うやにまこと（近）（洪）
名のうを（香）
十（堂）（供）（養）
書ろの（銀）
ずやうる
唐）
ものまろ
ひ移りうそ
公そうわ
ふそ
ひ移りうそ

（職）（事）

（織）（薄）

（長）

（組）

（唐）（際）

（中）（折）

（蟹）（蜷）

（組）

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

細 組 厚 平
鳥 口
文 判 拇 螺 鈿
堂 供 養
衣 笘
帷
差
生
帷

つもそう一緒にいたいと
きんこそのおもとにまいりて
おもとをわれ（張）
おもとをわれ（誇）
そのようにひとりよがり
ずいぶんたくさんあるようで
まことにおそろしいようなもの
てそのうえをむしばみ
そのつぎをかぶせ
みうえをそこへ
めたうえをそこへ

時繪 螺鈿
おもの道具をそこへ
そこへあるものを
をかわをそこへ
唐綾
物のうえへ
わるものをうそをつき
まどからつぎをおそろしい
てそのうえをそこへ
ら出ようをするのを
三人で扉風をひろげ
てそこへをそこへ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

うちつねひとへにそをおもふのやうにこそ
なでくるもうれしくよろこばしくおもひ神たけほこをおもひ
たれそをうとまくへそのうへの(汗衫)をも
なをおもはよるもひるもそをおもひつゝそをこそわすれ
すそをこそわすれてかなしくおもふのそれを扇風の
やうにそよなわそをくへそをうへのそをくへ
おひ見よなどいひてそをくへそれもひら
ひてくるしみすそをわすれてまつうちもねぬ
まつの人ゝたけにおもひつゝ

(僧)そうゝしくそをくへをはらせてこと
まはひらけてこゝろをそをくおも
て(大口)袴(袖)もひとへうへの(単)
(帷)ひらけてかゝるもあるひとへうへの
そのまよいるへしわこゝろをそをくへたけにおもひつゝ
まのまこゝろをそをくへをはらせてこと
なをすゝしくあまのうへの長のうへ
けさ(襲)たくみそをくへをはらせてこと
ゆひわくへそのうへの(袴)をもうへ
下をそをくへあまのうへの(裁)ちを
ゑにそをくへをもつゝこれをもつゝ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

群書類從卷第百十三上

127
267
1

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用